

目的 本研究は、我国の健康な幼児、若年及び中年を対象に、身体各部位の皮膚色を測定し、各群の特徴と年齢及び性別による差異について検討することを目的とするものである。

方法 関東地区に在住する健康な男女（幼児群男子9名、幼児群女子11名、若年群男子21名、若年群女子21名、中年群男子16名、中年群女子20名）を被験者とした。測定には、色彩色差計CR-100（MINORUTA製）を用い、マンセル表色系に変換した。測定部位は、①頬部 ②胸部 ③腹部 ④大腿前部 ⑤下腿前部 ⑥後頸部 ⑦背部 ⑧脇腹後部 ⑨臀部 ⑩上腕部 ⑪手背部とした。なお幼児はこの中の計7点であった。

結果 得られた色相、明度、彩度の各値をもとに、部位（被覆部・露出部、体幹部・四肢部）ごとの特徴について求め、さらに性差、加齢による変化、相関等の観点から分析を行った。色相はいずれの群もYRの範囲にあり、手背部は最もR側で明度が最低であり、胸部は最もY側で明度が最高となった。なお、性差については、女子は男子に比べてY側で、且つ明度が高い傾向であった。